

学校関係者評価票

学校名：歯学部附属歯科技工専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○重点目標及び自己点検評価項目等が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

基準	専門学校		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見等	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか	歯科技工士学校養成所指定規則に基づくカリキュラムに従い、全国歯科技工士教育協議会で指定される教科書等を使用することで国家試験対策を行っている。また、学修到達目標、授業時間、成績評価等を授業計画（シラバス）に掲載している。	A	教員と学生の距離が近く常に目の届く範囲に居り、ほぼマンツーマンで指導している。 効果的に教育を行うための取組は、実施されている。	教員が学生に対して現状のような体制で授業が行えば良いと思う。	学生10名に対して教員1名の体制を維持していただきたい。	特になし	A
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	授業内容及び方法の改善を図るための組織的研修について、歯科技工専門学校教学1R専門委員会を開き、学生の修学状況を把握し、個々に適応した指導を行っている。また、学生による授業評価のアンケートを実施し、内容の確認を行っている。結果・内容については担当教員及び他の教員も共有し、校長がアドバイスを行う等、授業の改善及び学生指導に役立っている。	A	学生の理解力、実習の修得状況に対し、細かく指導し教員間で連携を取り指導している。 学生の学修状況を把握し、個々に適応した指導をしている。大いに評価する。	学生による授業アンケートを実施しているとのこと、そのアンケート結果をみて授業の改善をしている。 今後も継続して実施してほしい。 学生に対し、迅速に問題点及び弱点を指摘し、アドバイスをしている。	実習内容が歯科技工にどのように役立つかを理解させてほしい。 授業アンケートは、何回実施しているのか。	実習風景を見学したが、歯型の模型と向き合っていた。日本はかつてない超高齢化社会であり、歯科技工士が入れ歯、インプラント作製に今後も更なる活躍が期待されていると思う。	A
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	学生募集について、ホームページによる周知、広告業者の電子媒体による周知、進学相談会や学校見学での周知を行っている。入学選抜方法については、AO入試、付属高等学校推薦入試、指定校推薦入試、一般推薦入試、一般入試を実施している。	C	ホームページの掲載を確認し、何も問題点はなく良い。 学生募集については、いろいろ取り組んでいるようである。	今後もホームページの更新は常に行っていただきたい。	特になし	施設が古く、環境が良くないと思う。 設備の老朽化が目立ち、学校見学者にとってあまり良い印象を与えないのではないかと。 学校にあるCAD/CAMは2002年に市販されたもので、現在は生産を終了している。歯科技工業界の現況にあったCAD/CAMシステムを整備すれば入学へのアピールになるのではないかと。 移転の計画についてはどうか。	B
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	専門学校運営委員会において入学選抜の公正性や適切性について検証し、次年度の入試計画に反映させている。	B	現状で良いと思う。	特になし	特になし	特になし	B
ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	全国歯科技工士教育協議会主催の専任教員講習会に計画的に出席することで、カリキュラムプランニング、コミュニケーション力の育成等の資質向上を図っている。	A	教員全体で歯科技工専門学校の向上に努めている。 外部組織の講習会などに参加して、取り組んでいる。	教員同志のコミュニケーションは良くできているので、さらに継続していただきたい。	特になし	特になし	A
教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	専修学校設置基準及び学則等に基づいて適切性について点検・評価を行っている。	A	教員組織は良好である。 適切に取り組んでいる。	現状を維持していただきたい。	特になし	特になし	A
進路指導における重点目標	毎年6月から7月にかけて、3回の就職ガイダンスを実施、キャリア・コンサルティング技能士による接遇とマナー、「仕事をしていくために必要な基礎的な力とは」と題し就職活動の流れや離職の予防支援など講演を依頼している。また、理想の職場探しとして、卒業生から体験談や日本歯科技工所協会の方から企業側がどのような人材を求めているかなど講演していただき、就職活動はもちろん歯科技工士として働くための意識を高めている。	A	第3学年、7月に実施している。	就職活動に必要なマナーから、理想の職場探しとして、先輩から体験談などを聞かせ指導しているようで、とても評価できる。このような実体験は、視野を広げるためにもとても良いと思う。	特になし	昼間課程2年制への改組を検討中とのこと。これに歯学部で実施中の学士（口腔保健学）口腔保健工学専攻を繋げ、卒業生の就職状況として官公庁医療機関、私立歯科大学病院、大手企業の診療室、歯科関連企業などに就職する道をさらに拓くことを考えるときではないかと。結果的に受験者が増える可能性がある。 卒業後の離職対策の一環として、歯科技工士として就業する厳しさを心構えを生徒に伝えていくと良いのではないかと。 歯科技工士も歯科医院や職場内等で対人関係や社会性が求められる。 CADオペレーターの求人が増加しており、CAD/CAM実習の強化は必須ではないかと。	A